

津高ライブラリ

津山高学校 図書部

TEL22-2204

季節物語

季節物語(春)

『春雨物語』の作者は上田秋成で、他の作品としては『雨月物語』がある。

作品としては、平安初期が舞台の、粟師によって起こされた乱や、死後の粟師の怨念によって自殺した平城天皇について書かれた『血かたひら』

血かたひらの後の時代で、良岑宗貞が仁明天皇の寵愛を受けたり、自分の歌や過去付き合ってきた女性が禍になることを恐れて出家して身を隠したりする様子を書いた『天澤処女』

土佐での任務を終えた紀貫之が船で京に帰る途中、海賊に襲われた話について書いた『海賊』

生き埋めにされて成仏をとげたはずの元高僧である定助が掘り起

こされて蘇生され、やがて過剰な米世願望を持ち、牛馬に生まれ変わるかもしれない輪廻の説ですら恐ろしくなっていく様子が描かれた『二世の縁』

室町時代の終わり、有名な歌人を目指している東国の青年が、京に上る途中の近江国老曾の森で、単眼の神ら異類に出会い酒盛りをし、そこで神から「京都の公家がしている和歌が家元化しているから、東国に帰り、詠歌は、初手の手ほどの後は独学でやっていくべき」だと言われ帰国する『目ひとつの神』

秋成の壮年時代にあたる明和四年十二月三日、京都一乗寺村で、渡辺源太が花嫁姿の妹つやを親戚の家の玄関で切ったという実際の出来事をもとにして、舞台を摂津に動かし物語にした『死言の咲顔』
江戸時代中期に曾洞宗の僧禅海が、諸国行脚の途中、豊後国羅漢寺を参詣したとき、川沿いの断崖にかけられた棧橋が危険であることを

知り、陸の道の掘削を思いつき、中津藩主の許可を得て作業を始め、周辺の村民や九州藩主とともに約三十年の歳月をかけ、宝暦十三年に道を完成させたという事実をもとに、秋成が怪力酒家の捨石丸の冤罪と禅海を結びつけ物語にした『捨石丸』

法然が讃岐に島流しにされたとき、懺悔し入水した遊女五人の話をもとにして、そのうちの一人を運命と悪意に翻弄される出自の遊女と設定して、その遊女が入水するまでのいきさつを書いた『宮木が塚』

物語や小説というよりは『万葉集』から読み取れる和歌に関する秋成の理論を書いたものであり、人と文学作品がうまくいったりいかなかったりすることへの関心の深さが読み取れる『歌のほまれ』

春雨物語 全十編のなかでもっとも長い作品で、主人公が親見殺しという、江戸時代では最も悪とみなされる罪を犯し、奥州の大和尚として往生を遂げるとき、遺言としてそのことについて書いた『笑噺』の全十編がある。

春雨物語のいくつかの作品は実際に起こった出来事をもとにして秋成がアレンジをしたものである。

もうすぐで春になるので、春休み期間にでも読むのをオススメする。

季節物語(夏)

夏にお勧めしたい本が沢山あります。夏に勧めたい本が沢山あります。夏に勧めたい本が沢山あります。

其一、『リリース』草野たき。母、兄、友人……、誰かのためにずっと我慢していると思っていた主人公の明良。バスケット部に所属する中学3年生の彼は、医師である亡き父の遺言を受け、将来は医者になると言われている。しかし本心はバスケット選手になりたい。そんな内心を家族にはもちろん、部活仲間にもひた隠し、うまくやっている。ところが、才能あふれる転校生や兄の秘密、一人の少女との出会いに刺激され、中学最後の夏、思いがけずコントロー

ルが狂い始め……。其二、『夏の庭』湯本香樹実。作です。小学6年の夏、人が死ぬ瞬間を見たいという好奇心から、町外れに住むおじいさんを見張ることにした。たばくと山下と河辺の三人。一方、観察されていると気づいたおじいさんは、憤慨しつつもやがて少年た

ちの来訪を楽しみに待つようになり……。きこなく触れられないながら解けあう少年達の悩みとおじいさんの寂しさ、忘れられないひと夏の友情が生まれる。

其三、『夏と花火と私の死体』乙一。作です。無邪気な殺人者の手によって、ある九歳の少女は夏休みに殺されてしまった。少女の死体を巡って繰り広げられる兄弟たちの悪夢のような冒険。子供だからこそ、無邪気で、残酷で、怖い花火のように散って消えていきそうな不確かさを持つた……。

其の四、『ひぐらしのなく頃に』竜騎士07。作です。『嘘だツツツ!!』この一言が、主人公を、今まで平穏であった(かのように思われた)小さな離見沢村を変えてしまった。昭和五十四年から離見沢村で起こる「オヤシロさま」の祟り―鬼隠し―からは今年も逃れられない。村中に渦巻き囃られる噂、ある事件を追う刑事の動向、そして不可解な仲間たちの行動。前原圭一、彼は何を見たのだろうか……。

其の五、『西の魔女が死んだ』梨木香歩。作です。中学生になってまもなく、「ま

は学校へ足が向かなくなってしまう。そこで、西の魔女のもとで一
月あまり気分転換―魔女になるた
めの修行―を始める。修行で最も重
要なことは、「なんでも自分で決め
る」こと。「まい」が魔女から身を
もつて学んだこの教訓は、人生のす
べてに共通していると言えるでし
ょう。

以上の五作品です。これを書いて
から気がついたのですが、どうやら
どれも「死」というものが関係して
いるようで。私たちの生活に最も根
ざしているからなのでしょう。

季節物語(秋)

秋の小説ということで、三作品紹
介したいと思います。

一つ目は、オー・ヘンリーの『最
後のひと葉』です。オー・ヘンリー
は短編の名手と言われた作家で、こ
の話も短編なのですぐに読めます。
この話の見所は、なんといつても
最後の展開です。予想しなかった結
末に驚かされること間違いなしで
す。しかしこの作品の魅力は、意外
さにただ驚いて終わるのではなく、
驚きと共に深い感動を味わえるこ
ろにあります。この話は、木の葉
が散ってゆく寂しい秋を舞台にし
た作品ではありますが、人間の情を

感じられて心が温かくなると思
います。

二つ目は、あさのあつこの『金色の
野辺に唄う』です。金色の野辺とは、
実った稲穂が秋の日差しを受け、一
面金色に輝いている風景のこと
です。この本には金色の野辺の他にも
赤蜻蛉、青く澄んだ空、焰のような
柿など、秋の美しい情景の描写が多
くあります。作者のあさのあつこさ
は岡山県の県北出身で、幼い頃に
は山や川など自然の中で遊んで育
ったそうです。文中の風景描写の美
しさは、そうして自然に慣れ親しん
できた作者だからこそ書くことの
できる文章なのだと思います。この
小説に登場する人物は皆、容易には
解決できない問題を抱えていて、読
み始めはなんだか暗い、重いと感じ
るかもしれませんが、しかし、最後に
はそれぞれが希望を見つけて、爽や
かな感じで物語が終わっています。
それが秋の風景の晴れやかさと相
まって、すっきりした読後感が得ら
れます。

三つ目は、宮沢賢治の『どんぐりと
山猫』です。これは小説というより
も童話のような話で、楽しく読めま
す。しかし実はその中に哲学的な台
詞も登場し、大人が読んでもまた面
白い作品だと思います。

今は季節外れになってしまいま
す。が、名作ばかりなのでぜひ読んで
てください。

季節物語(冬)

冬といえば島田荘司や東野圭吾
を思い出すのは自分だけだろう
か・・・

それは置いておいて、冬に関する
本は沢山あるがそれらをキーワー
ドにしぼって紹介しよう。一つ目の
キーワードは「雪」だ。雪といえば
冬の代表的な一つである。筆者は理
数科なので雪といえば結晶の性質
などの本を紹介したいのだが、小説
の紹介よりこの二冊を紹介したい
と思う。その本は、『雪国』と『細
雪』である。前者の作者は、川端康
成である。この人の本を読んだこと
はなくても、ノーベル文学賞を受賞
した人であることを知っている人
は多いだろうし、冒頭の「国境の長
いトンネルを抜けるとそこは雪国
であった・・・」は有名だろう。一
方、後者の作者は、谷崎潤一郎であ
る。この人は川端康成よりは有名で
はないかもしれない。しかし、この
人は、耽美的作品等からミステリー、
はたまた歴史小説など幅広い作品
を書く人である。まだ読んでない
人はぜひ読んでもらいたい。

二つ目のキーワードは「イベント」
だ。冬はいろんなイベントが多い。
その中から、バレンタイン関係を紹
介しようと思う。ここでは米沢穂積
『遠回りする雛』から『手作りチョコ
コレート事件』そして、北山猛邦『踊
るジョーカー』から『毒入りバレン
タイン・チョコ』。二つの作品はバ
レンタインの事件を扱った小説で、
前者は、高校生が主人公の日常的ミ
ステリーである。また、『水菓』(映
画化されている)と同じ古典部シリ
ーズで、さらに、短編なので読みや
すいと思う。後者もシリーズものの
短編で、気弱な名探偵・音野順と推
理作家の白瀬白夜が活躍する。科学
の原理をトリックに使用している
ので、理数科にお勧めである(個人
的には可能なか疑うが・・・)。

三つ目のキーワードは「ラブス
トリー」だ。有川浩『阪急電車』、
新海誠『秒速5センチメートル』か
ら、『桜花抄』。そして、冬といえ
ば一世を風靡したあの作品が思い浮
かぶ。それは、『冬のソナタ』。韓流
ドラマであり、日本でも一昔前には
「ヨン様」ブームを巻き起こした。
確か、本校の古本市で売れ残ってい
る一冊である。ドラマのほうが良い
作品もあるのかと思わせた作品で
もある。

さて、まだまだ紹介していない作品
も多い。あなただけの冬の小説を探
してみようだろうか。

読書感想文紹介

美作地区高校生
読後感想文コンクール

最優秀作品

『置かれた場所で咲きなさい』を
読んで

岡山県立津山高등학교
一年 仁木 日陽里

「置かれた場所で咲きなさい。」こ
の言葉は著者が初めての土地、岡山
で学長という思いがけない役職に
つき、未経験の事務の連続で自信を
喪失し、思い悩んでいる時にある宣
教師から贈られた言葉だそう。著
者はこの言葉によって大きく変わ
り、どんな困難も越えてきたとい
う。私は今、置かれた場所できちんと咲
けているのだろうか。せめて蓄くら
いには育っているのだろうか。そん
なことを思いながらこの本の題名
にひかれて手に取った。
「時間の使い方は、そのままのち
の使い方になる」これは、この本の

中で一番強く心に残った言葉である。私は時間の使い方とひどく後悔したことがある。その時の目先の楽しいことに一生懸命になり、本当にしなければならぬこと、大切なことを後回しにしてしまっていたのだ。この世に生きているすべての人は時間は等しく流れている。ならば後で悔やむような使い方をせず、そのひと時を有効に使うことで、同じ時間でもより充実した時を過ごした方が良く強く思った。全く無駄なく常に集中、常に充実、そんな完璧があるとは思わないが、自分にとって充実している時間を増やし、「くしておけばよかった」より「くしてよかった」の方が多い自分に変わりたと思った。一日の時間は皆平等にありながら、それでも人に与えられた時間はそれぞれ不平等で限りがあるものだと私は思う。祖母との永遠の別れを通してよく話してくれる母の「一生懸命でいてほしい。会える人に会える時に会っておくこと。できる時に『できること』。大切にしなさいこと。」という言葉と重なった。時を大切にすること、言葉を大切に使うこと、一生懸命に生きること、そんな当たり前のようでなかなかできない大切なことをこの本を読んで改めて

心に留めることができた。

この本を読みながらふと現代文の授業で学んだ『Pass born』という詩が頭をよぎった。自分自身が身を置く場所は自分自身が望んだ場合もあるが、そうでない場合もある。時代、国、地域、両親も含め皆が自分の選択した状況で生まれてくるわけではない。しかしこの時代にも必ず存在し、咲かせる花も必ずあると私は思う。置かれた場所の不平等を持ち、他人の言動で自分の幸せを左右されてはただの「環境の奴隷」にすぎない。今、ここに生きていることへの感謝の気持ちをお忘れずに自分の咲かせられる精一杯の花を咲かせたいと思った。「雨風が強い時、日照り続きで咲けない日、そんな時には無理に咲かなくてもいい。その代わりに、根を下へ下へと降ろして、根を張るのです。」この言葉は私の心に強く響いた。私はこの先、予想もできないほどの困難と出遭うかも知れない。しかし、時間がかかっても、大きくなって、置かれた場所で自分らしくより一層美しい花を咲かせられるよう一生懸命生きていたい。

優秀作品

音をつくる

岡山県立津山高高等学校

二年 川端 真優

私はこの作品を読んで、自分が音楽に出会った時のことを思い出した。中学校の入学式、新入生入場で流れた吹奏楽部の演奏を、私は今でも忘れられない。新生活への不安に押しつぶされそうな私を音楽は温かく歓迎してくれた。そこから私は吹奏楽部に入り、どんどん音楽に魅了されていった。「羊と鋼の森」の冒頭にある高校生の主人公、外村がピアノの調律と出会い、感銘を受ける場面は自分の体験と重なった。外村は、調律しているピアノの音から深く静かな森の景色や匂いを連想し、まるで自分がその森にいるかのような感覚を覚える。その感覚は私にもよく分かった。私も、音楽から真つ青な空や時には荒れ狂う海のような様々な風景を、人物を、物語を感じることがある。ページをめくるごとに、外村との共通点を見つけて嬉しくなった。外村は、地道な努力も惜しまないまっすぐで誠実な人物だ。少しでも自分の技術を向上させようと欠かさず調律の練習をしたり、自分の仕事を振り返って反省したりと日々

の努力を怠らない。だから、壁に直面してもそれを乗り越え成長していけるのだと思う。私はといえ、毎日二つ三つ努力することが苦手で、それが原因で失敗してしまうことがある。だからこそ、外村を尊敬し、外村のように努力を惜しまない人物になりたいと思った。そんな外村が働く楽器店の先輩である秋野さんが、私にとってこの作品で一番印象に残った人物だ。なぜなら、秋野さんの言葉には考えさせられる点が多くあったからだ。秋野さんの言葉は嫌味のように聞こえるが、外村への期待がこもった、冷たくも温かい言葉だ。この作品を読み始めた時は苦手な人物だったが、次第に冷たい態度の裏にある想いに気づき、読み終わった後は、実は優しい素敵な人物であるということが分かった。私にも秋野さんのように音楽で背中をおして下さった先輩がいる。その先輩は秋野さんとは対照的に温厚で無口な性格で、言葉ではなく背中や音楽に対する姿勢や練習への取り組み方を教えて下さった。いつも謙虚で誰よりも熱心に練習する姿は、音楽や楽器との向き合い方に悩んでいた私の心に強く響いた。先輩の背中が、私の音楽への姿勢や意識を大きく変え

て下さったのだ。外村にとつて、秋野さんもそのような存在だったのだろう。外村も私も、周囲の人々の力がなくては成長できないことを知り、支えてくれる先輩や友人、そばになった。『羊と鋼の森』では、音楽と出会いふれあう中で多くの人生が変わっている。音楽は本当に大きな影響力を持つていて、時に生きる希望を与えることもある。私も、外村のようにひとつひとつの音の真剣に向き合い、日々の努力を積み重ねて、人の心に届く、誰かの人生に良い影響を与えられるような音楽をつくりたい。

佳作作品

『余命十年』を読んで

一年 安東 映希

『きみの友だち』を読んで

二年 高岡 慶和

読んだことがない名作

『銀河鉄道の夜』 宮沢賢治

皆さんなら御存知でしょう。『銀河鉄道の夜』という物語を。

もちろん私も知っています。ただ、知っているだけ。読んだことはありませんでした。そんな方、私以外にも多くいらっしゃると思います。そんな方のために、この本の紹介をしたいと思います（あらすじ以外で）。

この本には宮沢賢治独特のオノマトペや比喩など、使い古されていない表現が多用されていて、ずっと新鮮な気持ちで読み続けられます。さらに、名作といわれているだけあって大変多くの作品に影響を与え、多くの派生作品を生み出しています。個人的にお勧めなのが、登場人物が猫になったアニメ映画版『銀河鉄道の夜』や、ラーメンズ第十六回公演「TEXT」です。読後でも、読前でもいいので、本とともども、ぜひ一度目を通してはいかがでしょうか。

『東京奇譚集』 村上春樹

この本は、『偶然と旅人』『ハナレイ・ベイ』『どこであれそれが見つけられそうなる場所』『日々移動する腎臓のかたちをした石』そして、『品川後』の五つの話からなる短編集で

す。私は村上春樹の作品を今まで敬遠していたので初めて読む著者の本を短編にしたのですが、収録されている作品のタイトルに驚愕しました。半分以上意味が分からなかった。これが村上春樹なのかと不安と好奇心が込み上がってきまして。あらすじは書く量が少ないので各自で調べてみてください。ただ、タイトルどおり面白いことは確かです。

今度は、長編の『世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド』に、挑戦していきたいと思えます。

『ころ』 夏目漱石

読んだことがありませんでしたが、現代文の授業でこの小説の一部を学んだことがきっかけで、読んでみようと思えました。物語は上・中・下に分かれているのですが、内容は主に「先生」（下では「私」）の経験についての物語です。「先生」の心理描写が細かく、人間の心をとでもリアルに描いた小説です。「先生」は結果的に親友を自殺に追い込んでしまうのですが、そこに至る経過が細かく書かれているので読んでいて恐怖を覚えます。考えさせられる小説です。

『変身』 カフカ

恥ずかしながら自分は図書部員であるにも関わらず、世界の名作をほとんど読んできませんでした。今回紹介する『変身』もその内の一つです。

主人公であるグレーゴルは父のかかえた借金によって布地販売会社のセールスマンとなります。最初は上手くいっていたものの、どんどん精神的に苦しくなっていく、ある夜に悪夢を見ます。悪夢から覚めた朝、グレーゴルは信じられない光景を目にしました。自分が虫になっていたので。虫になったグレーゴルはどうなっていくのか？ 続きは自分で読んで確認してください。

今年の図書部の活動

「H29年度支援学生交流会」

美作大学図書館ボランティア、津山高専図書委員会、津山高校図書部のメンバーが参加しました。学校ごとに一年間の活動報告をした後、各校入り混じったチームに分かれてレクリエーションをしました。レクリエーションの中でお互いの仲も深まりました。

「H29年度津山市子どもまつり」イベントにおいて、大型絵本の読み聞かせを行いました。図書部員は練習を重ね、本番に臨みました。子どもたちと共に絵本の面白さを感じることができ、子どもたちと一緒にふれあうことでとても充実した1日となりました。

「ティーンズコーナー」

岡山県立図書館にて開催されている、「ティーンズコーナー」という活動に参加しました。

今年度は「津山中学・高校図書館大賞」と題して、津山中学・高校全体に図書部でアンケートを採り、集計し、素敵なレイアウトとともに展示しました。来年も継続してやっていきたいです。

第六十三回青少年

読書感想文

岡山県コンクール

入選

二年 孫崎 恵美
一年 重内 美月

編集後記

今年取りかかりが遅れたこともあり、三年生の卒業までに完成するのか、内心焦りながらの作業でした。また、去年まで印刷を外部に頼んでいたのですが、今年から自分たちで印刷しなければいけないという困難もありました。そのため例年より少々見づらくらいとところもあるとは思いますが、部員一同やつとの思いで作上げた力作ですので、あたたかい目で読んでいただけると幸いです。



ティーンズコーナー



支援学生交流会

津山子どもまつり